

2019. 9. 30.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：10月1日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《9月のおはなし会で使った本》

『どっちのてにはいつてるか?』 新井洋行/作・絵 偕成社 2010

『ちいちゃんとじゅうごや』 しみずみちを/作 ほるぷ出版 2003

『パパ、お月さまとって!』 エリック=カール/さく 偕成社 2015

『しゅっぱつ しんこう!』 山本忠敬/さく 福音館書店 1984

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<乳幼児から>

『おかたづけバストリオ』 新井洋行/作 ほるぷ出版 2019.7 ¥1100

10センチ×30センチの縦長の絵本を3段に区切って、上から黄色、青色、赤色のバスの顔が並ぶ。お片づけバストリオが発車しまーす。「ボールさんのりますか?」「のりまーす」「プリンさんのりますか?」「のりませーん」それぞれの色のバスに、いろいろなお客さんが乗ったり乗らなかつたり。それぞれのお片づけバスの行き先は?カラフルで楽しい乗り物絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『おろろんおろろん』 石黒亜矢子/作 偕成社 2019.8 ¥1300

おろろんとは、真っ赤な月の夜に行列して歩くおぼけのパレードのこと。母親からおろろんのことを聞いた妖怪の娘は、おろろんに行きたくてしかたがない。でも子どもは留守番。そこで娘はおぼけの子どもたちだけを集めておろろんをすることに。楽しく愉快に思い思いのやり方でおろろんをしていた子どもたちだが、道に迷ってしまい…。子どもたちの様子が可愛らしくユニークな妖怪絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『だれのパンツ?』 シゲリカツヒコ/作 KADOKAWA 2019.7 ¥1300

学校の帰り道、タロウが団地の前の公園にいて、巨大なアニマル柄のパンツがふってきた。パンツを届けようと、団地の部屋を訪ねるうちに、さっきまでなかった階段が現れ、タロウは不思議な世界へ。持ち主を探してゴリラやクモ、カメレオンやおぼけのもとを訪れるが…。果たして持ち主は誰?細部まで描きこまれたユーモラスな絵と奇想天外なストーリー。読み聞かせにも。

<絵本-小学校中学年から>

『あなたがおとなになったとき』 湯本香樹実/文 はたこうしろう/絵 講談社 2019.7 ¥1400

「あなたがおとなになったときどんな歌がすきだろう」「あなたがおとなになったときここがじぶんの場所だと心にきめるのはどんなところだろう」シンプルで温かく優しいまなざしを綴った文章が心に響く。入道雲の浮かぶ夏の空、苔むした緑の森、星がまたたく藍色の空と群青色の海の色。美しい色彩の景色と、初々しく清々しい少女の表情がまぶしい。文も絵もじっくり味わいたい絵本。

<絵本-小学校高学年から>

『焼けあとのちかい』 半藤一利/文 塚本やすし/絵 大月書店 2019.7 ¥1500

作者の実体験にもとづく戦争絵本。「戦争の本当のおそろしさとは、自分が人間でなくなっていることに気がつかなくなってしまうことです。」数えきれないほどの丸こげの死体が軀がっついていても何も感じなくなり心が動かなくなってしまう状況を、作者は自分の目と耳と心で実際に経験した。だからこそ本当に伝えたい力強いメッセージが込められている。すべての人に読んでほしい一冊。

<読み物-小学校低学年から>

『タヌキのきょうしつ』 山下明生/作 長谷川義史/絵 あかね書房 2019.7 ¥1100

広島市のぼり町にできた、広島県で初めての小学校。校庭にはクロガネモチの木があり、その根元にはタヌキが生活していた。学校の様子を見ていたタヌキ父さんは、夜の学校をこっそり借りて、タヌキの子どもたちに勉強を教えることに。やがて、戦争が始まり、広島には原爆が落とされ、クロガネモチの木は黒焦げに…。戦争について考えるきっかけになるファンタジー作品。

『おぼけとしょかん』 斉藤洋/作 森田みちよ/絵 講談社 2019.7 ¥1100

ママに頼まれて図書館の本を返しに行ったぼく。案内係のお姉さんがぼくの好きなバスの図鑑を紹介してくれ、それを眺めているうちにつうとうと。夢の中で乗り込んだバスは、乗客はみんなお化け。驚いて目を覚ますと、あたりは真っ暗で夜の図書館になっていた。そこで見たものとは…。『おぼけずかん』シリーズが大人気の作者がおくる、新作童話シリーズ。

<読み物-小学校中学年から>

『手と手をぎゅつとにぎったら』 横田明子/作 くすはら順子/絵 佼成出版社 2019.6 ¥1300

近くの特別支援学校との、初めての交流学习に出かけることになった、小4のぼく。そこの4年生と一緒に、ダンスしたりゲームしたりするらしいけど、いったいどんな感じなんだろう。事前学習として支援学校に行ってみたら、うちとは違うことばかり。しかも、体育館で寝転んでいたりパニックで人を押し倒したりで、どうすりゃいいの?支援学校の子どもを理解する手がかりになるお話。

『ぼかりの木』 こうたけゆうこ/作 黒須高嶺/絵 学研プラス 2019.8 ¥2019.8

公園のどっか木ノキ。下にいると、誰もいないのに、軽くぼかりって感じで、たたかれることがあるから、「ぼかりの木」。ぼくのひいばあちゃんが子どもの時からあるらしい。ある日、この木の枝にまたがっていると、小さな女の子に声をかけられた。「うちのこと、見えてる？」この少女との出会いにより、昔あった悲しい戦争のことを知ることになる。平和への願いをこめて書かれた作品。

<読み物—小学校高学年から>

『思いはいのり、言葉はつばさ』 まはら三桃/著 アリス館 2019.7 ¥1400

チャオミンは10歳の誕生日がくるのを心待ちにしていた。ニュウシュ（女書）を習わせてもらう約束をしていたからだ。ニュウシュとは女性だけが書く文字。チャオミンは、ニュウシュや縫い物の稽古をしながら、民族の慣習の違いや、文字で思いを伝える喜びを知っていく。中国・湖南省で文字を習うことのできなかった女性たちが、生み出し伝承してきたニュウシュをテーマにした物語。

<読み物—中学生から>

『天を掃け』 黒川裕子/著 中村ユミ/絵 講談社 2019.7 ¥1500

「第3レーン。山口県すおう町立名熊中学校1年生。楠木駿馬くん」。モンゴル育ちで、走るのが何より好きな駿馬（しゅま）が、この全国大会での怪我の後、精神的な問題で走れなくなってしまった。そんな中2の夏、不登校のすばると出会う。死んだ父親の見つけた小惑星の探索にひとり挑む彼に、駿馬はしつこく付きまとい…。テンポのいい山口弁での会話が楽しく、見守る大人が温かい。

『リスタート』 ゴードン・コーマン/著 千葉茂樹/訳 あすなる書房 2019.7 ¥1600

おれはチェース・アンブローズ、13歳。夏休みに屋根から落ちて記憶を失った。おれはアメフトのスター選手だったらしいが、それ以上にとんでもないワルガキだったらしい。彼に次々と襲いかかる事件、そして、少しずつよみがえる記憶。友達への戸惑いながら「自分」探しをする少年と、別人のような彼に戸惑う友達の視点から、新しい人生をスタートする少年の姿を描く。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『うちに帰りたいときによむ本』 川崎二三彦/監修 北原明日香/絵 少年写真新聞社 2019.7 ¥1800

学校が終わってもうちに帰りたいほど。公園にいと、同じように時間をつぶしているあいつに出会った。毎日顔を合わせていると、いつの間にか遊んだり、話をするように。そして、あいつが体中に大怪我をしていた時、おせっかいなおばさんがやってきた。ぼくにはあいつの気持ちがよくわかる。だってぼくだって…。児童虐待の早期発見や援助のしくみを子ども向けにやさしく描く。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『生命のれきし はじめて読む「進化」の本』 キャサリン・パー/文 スティーブ・ウィリアムズ/文 エイミー・ハズバンド/絵 しまだようこ/訳 絵本塾出版 2019.6 ¥2000

45億年前、地球が生まれる。とても暑くそうぞうしいところ。生まれたての地球には、生き物はいない。35億年前、深く暗い海底で小さな粒と粒が結びつく、これが生命の始まり。細胞は、ゆっくり何百万年も長い年月をかけて複雑なものに…。最新の科学に基づいた、生命の進化を学べる絵本。すべての漢字にルビ付き。「れきしをまなぶ」シリーズ。

『ちょっとふしぎ 吃音・チック・トゥレット症候群のおともだち』 藤野博/監修 ミネルヴァ書房 2019.6 ¥2200

すらすら話せない、わざとじゃないのに不自然な動きを繰り返してしまう、ついうなり声やぶつぶつ独り言が出てしまう。みんなが不思議に思うあの子のくせは、吃音・チック・トゥレット症候群によるものかも。これらの特性のある人が、どんなことに困っているのか、周りの人は、つらい気持ちを想像しながらどうすればいいのかを学ぶ本。「あの子の発達障害がわかる本」シリーズ。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『旅するこどもの英語 ハワイ編』 コンデックス情報研究所/編著 成美堂出版 2019.8 ¥900

ハワイを旅行するミクとトモヤ姉弟。空港、ホームステイ先、レストランなどで、どんな会話が交わされるかな。イラストで34の状況を示し、交わされる会話は、吹き出しに。英文はアルファベットとカタカナで表記。また、資料編にはハワイに関する情報を掲載し、その国の理解を深めることができる。「こどもの外国語シリーズ」。他に、ドイツ語、フランス語、韓国語。

<ノンフィクション—中学生から>

『この顔と生きるということ』 岩井建樹/著 朝日新聞出版 2019.7 ¥1400

外見に疾患のある長男を持つ著者が、ジャーナリストとして当事者の話を聞き、親としてのあり方、息子の人生について考える。脱毛症や小人症の女性、トリーチャーコリンズ症候群の青年など20人以上取材。彼らが、学校や就職、恋愛でどのような試練に会い、自分の外見をどう考え、どう生きようとしているのか、たくさんの写真と共に本音を伝える。見た目に悩みを持つすべての人へ。

<研究書>

『図書館のための簡単な本の修理』 高岡容子/原案・監修 少年写真新聞社 2019.6 ¥2200

利用が多く、傷みやすい児童書の修理について、身近な道具で簡単にできる方法を、カラー写真やイラストでわかりやすく教える。修理の心構え、本の構造、基本の道具、水濡れやカビの対処法、Bフィルムへの貼り方、日常の本の扱い方まで、基本的な事柄を網羅する。傷みを予防する利用者への本の扱い方の指導も掲載。公共図書館や学校図書館に関わる人に役立つ1冊。

『ひとりでよめたよ! 幼年文学おすすめブックガイド200』 大阪国際児童文学振興財団/編 評論社 2019.6 ¥2500

「聞くことのコップ」を満たし、一人読みに進むまでの子どもに、読んであげたい、手渡したい、幼年童話や絵本200冊のブックガイド。古典から新刊まで幅広く網羅し、子どもの本のスペシャリストたちが、書影や書誌、グレードや、キーワードとともに1冊1ページで紹介する。ノンフィクション、短編集、シリーズ本などのジャンルに分け、10本の役立つコラムやキーワード索引も収録。

『広く深い学びをすべての子どもに 学校図書館利活用シリーズ1』 押上武文/小川博規/編著 学文社 2019.7 ¥2200

新学習指導要領における、学校図書館を活かした児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、各学年の指導事例を具体的に提示。「学びのプロセス」と指導法、学校図書館を利活用した授業づくり、読むこと・書くことの一体的な指導を重視した事例が満載。調べる学習活動を高める授業を具体的に提案をした『自ら深く考える学びの指導手引き』も同時刊行。小学校の授業づくりに役立つ。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。